

2025年1月21日

学校法人 東放学園
専門学校東京アナウンス学院殿

専門学校東京アナウンス学院
学校関係者評価委員会

2024年度 学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価委員

【関連業界】

朝田 孝二 東京俳優生活協同組合理事長

【高校教員】

下地 純平 立川女子高等学校 進路指導部主任 募集担当

【卒業生】

坂上 晶 専門学校東京アナウンス学院放送声優科卒業生 声優

【保護者】

大須賀 清美 声優科2年生保護者

2. 事務局

船場 吉行	専門学校東京アナウンス学院	校長
川田 泰弘	専門学校東京アナウンス学院	教務教育部長
大橋 真由美	専門学校東京アナウンス学院	学務管理部長
上野 浩一郎	専門学校東京アナウンス学院	学校評価委員
下田 孝祐	専門学校東京アナウンス学院	学校評価委員

※書記: 中島 陽一 専門学校東京アナウンス学院 学務管理部

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

2025年1月21日(火)17:00～19:00

専門学校東京アナウンス学院新宿研究所4階 402教室

4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

学校関係者評価結果

【評定の内容】

- 4:適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
 3:ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
 2:対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある。
 1;全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

I. 2023年度重点目標について

重点目標1.教職員スキルアップ

コメント	評定
本件は3年計画の3年目にあたる。教職員のスキルアップの向上に努めてきた。各学科の業務内容を共有する研修や、プレゼンテーション能力向上のための研修、DX化に対応するための研修を実施した。さらに『ゲートキーパー養成研修』など学生の理解を深めるための研修も取り入れ、教職員のスキルアップに力を入れた。散発での実施や、体系的に研修を組むことができないことが課題である。	3

重点目標2.業務効率化と職場環境改善

コメント	評定
本校は校舎が3つに分かれているため、業務効率化を必要としている。今年度は職場環境改善、学生サポートと合わせて3つの学内プロジェクトを立ち上げた。学生サポートイベントの実施や教職員行動予定をモニターで表示、学生の出席成績管理システムCampus Planの導入といった所で改善を図った。	4

重点目標3.校舎、カリキュラム等のリニューアル

コメント	評定
2023年3月新校舎内に“TAG-TAG theater”という小劇場が完成。5回の柿落とし公演を開催し、地域住民や姉妹校との新たな関係性の構築に繋がった。カリキュラムリニューアルの一環として芸能バラエティ科から配信クリエイター科への学科名変更を実施。時代の流れに合わせたライブ配信など視聴者と直接的な繋がりを重視したカリキュラムへと刷新できた。	4

重点目標4.中途退学率低減

コメント	評定
2022年の9.47%から2ポイント改善し、2023年は7.22%となった。レクリエーションイベントの実施やCampus Planの導入によるリアルタイムで学生が出席状況を確認できるようになったこと、クラスアドバイザーによる細かい出席管理などにより改善に繋げることができた。	4

重点目標5.進路決定率向上

コメント	評定
在籍者に対する進路決定率は、2022年度の92.1%から2023年度の91.8%と微減となった。所属はもちろん養成所も含まれ、さらに一般企業に就職した者も含まれている。進路決定率の向上はもちろん、質の向上も今後の課題である。卒業時に全員決まるのが望ましいが、悪い水準ではない。	3

II. 評価項目別取組状況について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

コメント	評定
「己と和と成長」という基本理念を掲げ人材育成を行っており、教職員間で共有されている。各学科は、それぞれの学科の特色や目指す卒業生像を明確にし、それに合わせた教育を行っている。2025年度には、全学科で職業実践専門課程の認定を目指しており、職業実践専門課程の認定に向けて、企業との連携を強化し、実習授業の導入やカリキュラムの共同作成、教職員研修を実施している。教育理念は教職員への研修や学校内の掲示物などで周知されているが、学校関係者以外への周知が今後の課題となっている。	3

基準2 学校運営

コメント	評定
学園の基本理念に沿って、エンターテインメント分野の人材育成やカリキュラム構築に力を入れている。組織としては5カ年の中期計画に基づき、具体的な事業計画を策定し、教職員全員で共有している。運営にあたっては就業規則やその他規定を設け教職員が確認できるようになっている。事業計画は半期ごとに理事会や評議会でチェックしている。学生情報はCampusPlanの導入によりクラウド上で管理し、教職員・学生ともに即時確認することができる。	4

基準3 教育活動

コメント	総合評価
教育課程編成委員会を中心に、教育の質向上に継続的に取り組んでいる。企業や学校関係者から意見を聴取し、学生に対しては授業評価アンケートを実施し、それを基に、講師へ授業改善の依頼を行い教育内容の向上に努めている。 キャリア教育においては、進路セミナーや業界講座、ブラッシュアップ講座などを開催し、キャリア形成をサポートしている。また、International Centerや東放学園キャリアサポートセンターとも連携し、留学生を含めた学生へのきめ細かな進路支援体制を構築している。 課題としてはVTuberのように個人の名前が出にくい進路先の開拓に努める必要がある。また留学生の進路支援も必要とされ、職業実践専門課程が認定されると留学生の進路先の選択が広がる。	3

基準4 学修成果

コメント	総合評価
進路決定率向上を目指し、キャリアサポートセンターと校舎スタッフが連携して、学生個々に教育や相談を行っている。求人情報やオーディション情報はコロナ前に比べ減少傾向にある。進路決定率を上げるため進路セミナーやオーディション対策・就職活動対策にも取り組み、進路決定率は安定している。学生個々の進路希望は毎年進路調査アンケートを実施し、ニーズにマッチした求人を紹介できるようにしている。卒業生の在職調査も東放学園キャリアサポートセンターにより毎年実施され、把握に努めている。	3

基準5 学生支援

コメント	総合評価
進路指導を強化するため、毎月東放学園キャリアサポートセンターと校舎の進路担当が連絡会を開催し、最新情報の共有や勉強会を実施している。学内イベント「星誕オーディション」では70～80社が参加し、対面・オンライン両方で審査が行われている。各学科では進路セミナーや企業説明会、模擬オーディションも実施しており、学生の進路支援を行っている。 中途退学防止にはCampus Planを活用し、欠席学生へのフォローアップを行い、悩みのある学生にはカウンセリングを案内している。ここ数年留学生数が増加し、留学生支援委員会が情報共有しながらサポートしている。経済的な支援は奨学金担当と学費担当が連携し、個別相談に対応。学生の健康管理は定期的な健康診断や持病・アレルギー対応を行い、緊急時の体制も整えている。 また、提携企業の学生寮を案内し、管理体制を整備しています。コロナ禍の影響で一時停止していた課外活動は、現在クラブ活動の再開に向けてアンケートや呼びかけを行っている。保護者には学生の欠席や成績情報をCampus Planから確認できるように整備した。 卒業生向けにはTOHO会が同窓会や会報誌の送付などを実施し、卒業後のサポートを提供している。	3

基準6 教育環境

コメント	総合評価
施設や設備の更改を業界の動向に合わせて計画的に進め、関連法令を遵守している。建築設備は委託業者による定期点検を実施している。防災体制は、学園内に災害対策委員会を設置し、マニュアル作成や備蓄品管理、防災訓練を実施しています。校内の安全管理は外部委託の警備により巡回や危険個所のチェックを行い、学生への挨拶奨励も安全対策として重要としている。 インターンシップ制度の利用は難しく、今後企業との連携が課題となっている。	3

基準7 学生の募集と受入れ

コメント	総合評価
高校内でのガイダンスや高校訪問も積極的に実施し、また入学希望者や保護者、教員向けに資料を準備し幅広い情報発信ができています。コロナ以降、オンライン相談など新たな方法で質問しやすい環境も整備できています。入試選考基準も明確にし、且つ定期的に見直しも図っている。入試選考に関するデータは毎年蓄積し学校運営に幅広く有効に活用されている。	3

基準8 財務

コメント	総合評価
中長期計画に基づき校舎や設備の拡充を行い、財政基盤は安定している。予算は入学予想に基づき編成され、経理部門が過去3年分を分析し、コスト管理を担当者が行っている。事業計画に基づく予算・収支計画は理事会で確認を得て進行し、予算超過時は協議の上で対応している。監査法人による監査を実施し、財務情報は公開されている。	4

基準9 法令等の遵守

コメント	総合評価
学則や規定の見直しを学校と法人本部が連携して行い、教職員に周知している。個人情報保護には厳格に対応し、バックアップや暗号化、セキュリティ強化に努めている。自己評価や学校関係者評価を組織的にやり、結果を一般公開している。教育情報はパンフレットやWebサイトで広く公開し、SNSでも学校の様子を発信するなど、透明性の高い情報提供を行っている。	4

基準10 社会貢献・地域貢献

コメント	総合評価
地域との交流を大切にし、ボランティア活動を通じて社会貢献を行っています。警察署への協力や地元のお祭りなど学校が調整役となり、積極的に協力している。留学生の受け入れ体制も整備し、International Centerの設置や留学フェア参加を通じて国際交流を促進している。	3

5. 所感

今回の学校関係者評価委員は卒業生のみが新任となり、昨年度から引き続き4名で対面方式での実施となった。また全員出席のもとに委員会を実施することができた。新任の卒業生からは卒業生という立場から、忌憚のない意見が得られた。自己評価報告書の記載内容や学校の実情に関心を持つ委員も多く、学校側出席者に対して質問が寄せられた。限られた時間ではあったが、学校関係者評価委員、学校側ともに得られることの多い委員会であったと考えられる。

以 上